

第4回 第三次西東京市地域福祉活動計画 進行管理委員会会議録（案）

日 時 平成28年9月13日（火）

午後7時～8時30分

場 所 田無総合福祉センター第1会議室

<出席委員>石橋尚、伊藤正子、榎本めぐみ、熊田博喜、畠山昭裕、土方孝一郎、三輪秀民  
吉田真也、有馬将由（代理）

<欠席委員>岩崎智之（敬称略、五十音順）

<事務局>丸木 敦（総務課長）、鶴野浩至（総務課主幹）、浜名幹男（福祉支援課長）  
妻屋良男（福祉活動推進課長補佐）、小口浩司（総務課法人運営係長）

- ・委員長の挨拶により開会。
- ・情報部会の岩崎委員が欠席のため、代理として部会員の有馬氏にご出席いただいた。

<議 題>

1. 前回議事録の確認

- ・変更、修正についてご意見なしということで確定稿とする。

2. 各推進部会の取り組み（平成28年6月以降の進捗状況）について

委員長：前回の委員会以降の取り組みについて各部会よりご報告いただきたい。

①居場所づくり部会

委 員：「よってらっしゃい」というサロン活動を、社協の活動拠点である「ほっとハウスみどり」で引き続き水曜日の午後1時30分から4時まで行っている。

6、7月には、部会員が他のサロンにお伺いして意見交換を行なった。また、介護予防体操を取り入れてサロン活動を実施した。他のサロンとの意見交換を参考に、11月からは新たにランチ会を取り入れる予定である。その後都合により延期した。8月には、サロン活動を実施するための手引書を作るために、原稿作成の分担を決めた。

本日、社協主催のサロン講座において私を含めて4名のスタッフで報告を行なった。

委員長：介護予防体操を取り入れたということであるが、何人くらい参加されたか。

委 員：当日の参加者数は不明であるが、いつもは14、5名の参加がある。

委員長：手引書の作成について、どのような方向性で作成されるのか。

委 員：骨格は事務局と一緒に考えているところで、それに沿って私が「はじめに」を書き、他の部分は分担して書く予定で、原稿の締め切りは11月の下旬頃を考えている。

委員長：是非、とりまとめられた内容が西東京市の居場所づくりに広がっていくことを期待している。

委 員：前回意見として出された看板についてはどのような変化があったか。

委 員：看板については、自分たちの課題というよりも社協の予算関係も含めた課題であると考えている。大きな看板を要望しているが、今のところは実現していない。

事務局：前回掲示板設置のご意見があり、事務局としては2種類の掲示板を想定している。

1つ目は市内約30カ所ある社協の掲示板で、様々な団体が活動紹介を掲示できる

ようなものと、2つ目はほっとハウスみどりの活動内容が外からわかるような掲示板である。

最初の掲示板については、総務課が担当しているので、拠点の担当部署や大家さんと調整しながら今年度中に設置したいと考えている。

もう一つの掲示板については、A3 横版くらいの大きさの紙が入られるような、画板のような物を配布している。

委員長：いろいろと権利関係等もあると思う。簡単に設置できるものではないかもしれないが、活動する中では必要なものなのでねばり強く調整してほしい。

## ②人材部会

委員：これまでの成果を数的に示すと、出演者が 24 組決定している。私自身の目標としては年内までに 7 組を決めて 31 組にしたいと考えている。

受入れ施設については 21 施設であり、こちらも目標は 31 施設としている。

これまで訪問して断られた施設は 2 件あり、1 番多く訪問したのは 7 回であった。

こちらのプレゼンをしっかりしないと話にものってくれないので、営業センスが必要である。

高齢者を対象としたファッションショーをやりたいというところがあり、最終的には地域の理容師さんと結びつけることができた。

公民館などで活動しているサークルの人たちは、一生懸命練習はするものの、技術を披露する場所がほとんどないということがわかった。そのような人たちが活躍できる場所を確保するためにはこうした取り組みが必要だと考えている。

今後は営業よりも、例えば発表できる場と懐かしさを感じるお客さんをつなげるような取り組みに力を入れていきたいと思う。

来期については、さらに新しい施設やサークルの拡充を図りたい。そのためにはボランティア・市民活動センターやゆめこらぼとのジョイントも考えている。

委員長：非常に困難なこともありながら取り組みを進めていただいているようであるが、何かご質問等があればどうぞ。

委員：発掘していく人材の方向性は、今後も一芸に秀でた方とするか。

委員：現在登録している 30 組で回していけるとも考えてはいるが、これまで登録してくれた団体から別の方の紹介もいただいている。常にアンテナを張っていることで人材の情報は入ってくる。

委員長：公民館の取り組みが進んでいるので、力をつけた方を上手に地域の施設につなげていくことに取り組まれている。

一方では、社会福祉法の改正があり、社会福祉法人が地域貢献を行うにあたり、地域の中の力を持っている方々が、どのような形で活躍できるのかということについても今後は考えても良いのではと感じた。

事務局：社会福祉法の改正に伴って、市内の社会福祉法人が地域において公益的な活動をしなければならないという責務が生じている。そのことを西東京市の中で各法人にどのように実現してもらおうかということ、社協が中心となって検討会を立ち上げて取り組んでいる。そのような場で、今後人材部会で確保されている人材を、

社協のボランティア・市民活動センターやゆめこらぼを通じて積極的に紹介していくということは可能であると思う。

委員長：ここまで努力して形を作っていたので、継続的に展開できることは委員会あるいは事務局を通して相談しながら進めていきたいと思う。

### ③情報部会

委員：情報部会では、「情報を集める・発信する」手法について、アナログ、デジタル、または二つを融合させたものを実践するという形で進めている。

これまでの活動としては、田無地区の自治会の協力により回覧板を実施し、アナログ的な活動に取り組んできた。この活動では不十分なところもあり、もう一度同じように他の自治会をモデルとして設定して行なうとともに、集合住宅についても調べてみたいと考えている。

今年は、下宿自治会の広報担当になった知人から、少しでも若い人たちに自治会に参加してもらいたいということでフェイスブックページを立ち上げたことを聞き、ヒアリングができないかと相談をした。その方を通じて自治会の会長、副会長と面談して、アンケート調査の実施についてお話をした。

アンケート内容としては、自治会を退会された理由や自治会への要望、回覧板を上手に回す方法等について知りたいとの意見が出て、それを聞くには若い人が聞いた方が良いのではという意見も出されて、情報部会に参加してもらっている学生さんとともに、聞き取りによるアンケート調査を9月に実施することになった。集合住宅については、田無病院前グランジオと向台町のヴィーガーデン、芝久保1丁目のパークウェスト東京の3カ所候補地があがっている。3カ所の共通項としては回覧板が回っていないことと掲示板で情報共有をしていること、自治会ではないけれども管理組合があることである。

デジタルを活用しての情報提供活動は年内の実施に向けて、フェイスブックのページを立ち上げる予定。アナログの情報については「快RUNワン」というキャラクターを作って進めてきたが、デジタルの情報については、ユーザー名を「digital-wan（デジタルワン）」、ページ名を「西東京まちの魅力発見隊～あなたのまちのコンシェルジュ～」として、トピックスのカテゴリを「つながり」「ふれあい」「地域」に設定して進める予定である。フェイスブックが立ち上がった時には、他の部会の情報も掲載したいと考えている。

委員長：自治会の調査について、市で実施されていることはあるか。

委員：自治会については協働コミュニティ課で実施することはある。

委員長：そのような情報もお目通しいただきながら進めていただければと思う。

退会された方にお答えいただくことが調査のポイントになると思うが、貴重な情報になってくると思うので、是非進めていただきたい。

副委員長：情報については、大変重要なことだと考えている。

自分もマンションに住んでいて管理組合には加入しているものの、地域の自治会には入っていない。この前防災活動の関係で、たまたま回覧板を見せてもらったら、そこには色々な情報が入っており、自分のほしい情報が入っていた。マンションに

も情報をほしいと思っている人はいるのではないかと思った。

一方では自治会の加入率が低くなっており、その理由として会費を払うのが大変とか役員の負担があるとか、子どもが大きくなったとか共通な課題があると思う。聞き取り調査を実施するときには仮説のようなものを立ててから行なった方が良いのでは。

委員：調べた範囲では、現存する自治会には回覧板が回っているところと回っていないところがある。回っているところも、自治会メンバーが高齢化しているところがあったりして、内容がほぼ訃報と従来から行なわれている消防訓練等の行事、募金等のみで、回覧板としてコンテンツがないところが多い。

では、どのような情報があれば喜んでもらえるのかということ調べるのも部会の役割だと考えている。

副委員長：全体の感想として、各部会の発想も素晴らしいし、活動も素晴らしいと思うが、一番悲しいことは担当されている方が疲れてしまい、その活動をやめてしまうことなので、活動が長続きするためには、やってらっしゃる方が楽しいということが大事だと思う。

委員：居場所部会ではシフト表を作成して活動しており、月に1度はお休みを取ることにしている。もう少しスタッフは多い方が良いと思うが、活動のコンセプトを理解していただかないといけない。

事務局：活動されている方が疲れなようにということは社協の役割だと考えている。進行管理委員会の中で社協の役割も含めて進行管理をしていただけるとありがたい。

### 3. 進行管理表の検討について

委員長：今、実際どのような状況なのかということ継続的にまとめていくことが必要であると思う。

まずは26年度から27年度までについて事務局から説明をお願いしたい。

事務局：今回の資料については、前回のご意見を踏まえて「目標値に対する成果」と「取り組みに対する成果」という成果欄を設けて、事務局で記入させていただいたものとなっている。

#### <進行管理表（資料3「居場所づくり部会」）の記載内容について一読>

委員長：この資料については現在の取り組み内容ではなく、今までの活動の軌跡についてのまとめである。また、今後どのようにしていくのかという方向性も出ているのかどうかということにもなると思うが、何か加えた方が良いことや訂正することがあればいただきたい。

委員：これはあくまでも26年度から27年度までのものか。

事務局：そうです。

委員長：この進行管理表は、ゆくゆくは次期計画のデータになっていくことになるので、こういったものを蓄積して残していくことが重要であると思う。

委員：「活動への参加者は固定化せず、継続して積極的に施設や地域団体等に働きかけをしていただきたい。」ということであるが、「固定化せず」とはどういうこと

か。

事務局：「固定化せずに」とは、「子ども」とか「高齢者」とか対象者を固定化せずに誰でも参加できる居場所という意味で記入している。もともと居場所づくり部会の皆さまは、誰でも拒むことなく、来てが良いというコンセプトで進めてきたと思うので、そうした表現で良いか。

委員：それで良いと思う。

副委員長：前回まではアクションの部分が記入されていない表を提示されたと思うが、今回はアクションの部分が記入されている。このアクションの部分についての評価の主体は誰か。

委員長：アクションの部分については、委員会の判断によるものとなり、そのたたき台を事務局に作っていただいているものである。進行管理委員会は進行管理表の中のコメントを入れなくては行けないが、何も入っていない状況では検討に時間がかかってしまうので、今回は事務局に内容を入れていただいている。

副委員長：そうすると「今後改善すべきこと」ではなくて「期待したいこと」という書きの方が良いか。

事務局：前は自己評価の部分までを提示して、それに対して委員の皆さまからご意見をいただいた。そのご意見をもとに事務局でまとめたのがアクションの部分である。表現としては、市民の皆さまが取り組んでいることであるので、あくまでも強制的にならないように、進行管理委員会としては、こんな工夫もあっても良いのではというニュアンスにとどめている。

委員：三者の表現を見比べてみると、「～していただきたい。」というのはピンとこない。社協の部分を見るとそうはなっておらず、市の部分には「いただきたい」となっており、なんだか上から目線のような表現に感じる。広く公表されるのであれば、節度をもって表現をきちんとしていただきたい。

委員長：具体的にはどのような表現が良いか。

社協だけ「～すること」となっているのは、作成段階で社協が作成しているからだと思うが。

事務局：あくまでも進行管理委員会は社会福祉協議会の組織の一部であるので、表現をこのような形にしている。

市民や市に対しては、進行管理委員会は外部として表現を和らげている。

委員長：これまでの地域福祉活動計画の進行管理委員会には、計画を推進している側の委員さんが一人もいなかったが、今回は実際に進めている委員さんがいらっしゃるもので、上から目線ではなくて、自分たちで取り組んでいるものに対して、委員会の中で客観的に整理させていただく位置づけになっていると考えている。

事前の打ち合わせの際に資料を確認したときに、「願いたい」といったへりくだる言い方というのは違和感があり、「していただきたい」で良いと思った。表現については、それぞれの委員さんの感じ方だと思うので、ご意見をいただきたい。

委員：進行管理委員会は、社協組織の中の委員会であるので、私はこの表現で良いと思う。上から目線と言うが、少しはそのような部分があっても良いという気がする。

委員長：もし、ご意見を反映させるのであれば、委員会に推進部会のメンバーさ

んも入っていらっしゃるので「していきます。」という主体的な表現で書いていく方法もあるがいかがか。

委員：あえて言うと、この欄は「改善できること」と書いてあるので、社協に書いてることと同じようなトーンでまとめるという方法もあると思う。

委員長：市民、市、社協の表現を同じにすることでよろしいか。

委員：ここに書かれていることは委員会と部会だけで共有するものであれば良いと思うが、外部に出るのであればどうかと思う。

委員長：この資料についてはホームページにアップするといことも聞いている。内部資料ということではなく、広く市民の方に対して活動計画の進行状況についてお示しするための資料になる。

委員：それであれば上から目線のような表現は良くないのでは。

事務局：「やってほしい」というのではなくて、例えば全部を「～する」という表現に統一すれば良いと思うがいかがか。

#### <表現について一同承認>

事務局：上下関係の話が出たが、活動されている方々と進行管理委員会には上下関係はないと理解している。あくまでも活動計画がどのように進んでいき、課題が何かを明らかにしながらそれを次期計画につなげていくことが進行管理委員会の役割であると考えている。

委員長：進行管理委員会にはそれぞれの立場の方が集まり、出てきた情報を集約して整理する場であると考えている。計画を策定する際には上か下かの話もあったが、見たいは代表的な方が集まって来ているので上のように見えるかもしれないが、指示をする委員会ではない。

社協からも、推進部会の全体会でその説明をしてほしい。

副委員長：私が気になったのは、「実践マニュアルの作成」とか「見える化」とかノウハウを誰が求めているのか。活動をしている方々が取り組んでいる中でまとめていこうということになったのか、社協さんがそういうことをしてほしいと考えているのか。「やれること」と「やってほしいこと」は別の話なので、すごく負担がかかることだと思う。当事者の方々がこれをやろうということであれば、前向きにできると思うが、負担を要求することにならないか危惧している。

事務局：今のご意見については、居場所部会で検討し、取り組んでいることを進行管理委員会で追認する内容である。

委員長：内容について他にご意見がございましたらどうぞ。

委員：「今後改善できること」をもう少しコンパクトでインパクトのある表現にできないか。例えば「～工夫がされている」という感想の部分は不要で、こうした表現は上から目線に見えるのだと思う。文章も長いので、いくつかポイントを絞って、改善できることを明記した方が良い。市民に協力してもらいたいのであれば、優しく語りかけるような文章にしてほしい。

委員長：今ご意見をいただいたので、文章については箇条書きでまとめていただければと思う。

委員：「魅力的な活動」という抽象的な表現はよくわからない。具体的に書いていただい

の方が良いのでは。

委員長：状況によっては、抽象的な表現はカットしても良いのでは。前に「地域の方が持つ「力」を活かして、参加・協力したいと思っていただけるような～」とあるので、それが「魅力的な活動」を形容していると思う。

この部分については、事務局で変更整理してほしい。

事務局：前回の記録を確認しながら、わかりやすい表現に修正する。

委員：プランを作って、実際に活動して何か問題があった場合に、どのように解決するのかということが進行管理表に出てこなければいけないのでは。例えば、「室内で待っているだけでなく、屋外で声かけすることで立ち寄りやすくなる。」と書かれているが、その後どうするのか答えがない状況であると思う。

委員長：できるだけ、コメントと改善できることの内容を近づけるということか。

委員：評価の部分は「良くできました」ということで良いが、PDCA サイクルは、問題のある部分をより良くしていくためのものだと考えている。

そうであれば、チェックの部分で本当に問題のある部分を次期の計画でどうしていくのかを考えていくことが本来の形だと思う。

事務局：その部分については、この委員会の中で議論していただかなければ出せないと思うので検討をお願いしたい。

委員：先ほど出た「～工夫がされている。」という部分は、評価の部分に入れてあげれば良いと思う。それを受けて、引き続き実施して活動の幅を広げていければ良いのでは。

基本的にはここに書かれている内容が違っているというのではなく、見直して整理していけば良いと思う。

「目配りが必要」ということについては、もう少し参加者を増やすことができれば良いことなので、そのようなまとめ方をしたらどうか。

委員長：チェック欄のコメントに対する回答をアクション欄に記入していくということで良いか。

委員：問題提起の内容がここには入っていないと思う。問題提起をしないと次のアクションにつながらないのでは。

また、「女子が多い」という部分は不要である。男女の比率がどうこうという内容は入れない方が良い。色々な人を見ることを前提に作成してほしい。

委員長：例えば、コメント欄の「室内を走り回ること」は問題提起であり、「参加者が協力者として活動している」は出来たことだと思うので、問題の部分については活かしたらどうか。

「室内を走り回ることもあるので、目配りが必要。」という部分については、例えば「さらに協力者を増やすために」という部分にいきていると思う。ただ、それをどのようにしてきれいに接合させるかについてはどうかと思った。室内を走り回ることもあるので協力者を参加させるということではないという微妙なニュアンスもあると思った。

委員：「改善する」ということは、何か改善すべきことがあるから改善するのであって、コメントの部分に良いことだけではなくて問題や課題を挙げて記入した方が良い

のでは。

委員：必ずしも問題点だけではなくて、良いところは評価して、さらにどう進めていくのかということを示していけば良いと思う。

例えば、「参加者が協力者として活動している」という部分は評価できることなので、これをさらにどう進めていくのかについて記入するというように、記入されている内容を整理していく。その中に「走りまわる子」も含まれているというような形にできれば良いのでは。

委員長：評価表の内容がストーリーになっていることが大事である。これだからこうなっているというような対応関係ではなく、こういったことは良いこともあり課題でもあるということもふまえてこうしていくという表現にした方が良い。

委員：進行管理表は、第三次西東京市地域福祉活動計画の中で出てきた具体的な活動内容に対して、推進するためにはどのようなプランがあって、それぞれの部会がどのように活動しているのか自分たちでチェックするために、この委員会で報告を受けながら確認をしていくもの。その上で委員会としてどうしていくべきだというのは「アクション」に記入されるものだと思う。

次期の計画については、この「アクション」に基づいてどう進めていくのか検討するための資料にもなる。

あくまでも、進行管理委員会では活動内容の報告を受けながらアクション部分のコメントを入れていくということが趣旨だと考えている。

事務局：そのことを事務局として落とし込むためには、良いことについてはそのまま進めてくださいということになると思うが、課題については集中的に議論していただき、課題に対する方法についてご意見をいただかないと評価表に落とし込むことができないので、次回以降はお願いしたい。

委員長：今回の評価表については26年度から27年度のものであるので、28年度分を作成する時には気づいた部分を整理していただきながら、いただいたご意見を踏まえて議論を進めていき、事務局にも資料の整理をお願いしたい。

事務局：あくまでも、いままでの取り組みは取り組みとして追認していただければと思う。ただし、その場その場でこうした方法もあるといったご意見については、この委員会の中で改善できることに盛り込んでいただいて、推進部会の委員や社協の担当者を通じて部会活動にフィードバックしていただきたいと思う。

委員長：そうした方法でよろしいか。

#### <方法について一同承認>

それでは、事務局から人材部会と情報部会の進行管理表について説明をお願いしたい。

事務局：<進行管理表（資料3「人材部会」「情報部会」）の記載内容について一読>

委員長：委員の方で何かお気づきの点があればどうぞ。

委員：26、27年度は準備段階であり、あまり行事も行なっていなかったもので、一歩一歩進んでいた状況であった。自分の予測として28年度以降は、用紙に書ききれないほどの活動内容になると思う。スタッフも1人増えたがとても足りないもので、募集をかけて増やすことができれば活動も広がると思う。



進行管理表の内容については特はない。

委員：情報部会については特はない。

事務局：今日説明して、人材部会、情報部会からは特はないとのことであったが、先ほどご意見をいただいた書き方に訂正した上で、次回提出して最終的に確認させていただきたい。

委員長：今回は、今後の方向性を考える上で重要な議論となったので、次回には最終確定とさせていただければと思う。

以上をもって、第4回第三次西東京市地域福祉活動計画進行管理委員会を終了する。